# サポート・ご協力　ありがとうございます

## ■平成19年度継続会員（敬称略・順不同、2008年6月１日～2008年7月31日）

**（正会員）**大久保正司、松山風土研究会、横山英子　**（準会員）**高清水ソフトウエアカンパニー、中野勇也

## ■平成20年度新規・継続会員（敬称略・順不同、2008年6月１日～2008年7月31日）

**（正会員）**（特活）あかねグループ、アップル環境ネットワーク、青木ユカリ、（特活）あいちNPO市民ネットワークセンター、（特活）イコールネット仙台、（特活）活き生きネットワーク、（特活）いわてNPO-NETサポート、（特活）いしのまきNPOセンター、一條千佐子、内海裕一、片桐和紀、川村志厚、（特活）起業支援ネット、北尚登、（特活）グループゆう、小林正夫、木幡勝幸、坂下康子、CILたすけっと、白川由利枝、芝原浩美、（特活）住民互助福祉団体ささえ愛山元、関口憲一、（特活）ソキウスせんだい、（特活）多賀城市民スポーツクラブ、高橋幸夫、谷川俊太郎、田代久美、（特活）ちば市民活動市民事業サポートクラブ、地産地消を進める会、（特活）チャリティプラットフォーム、（特活）でんでん宮城いきいきネットワーク、東北HIVコミュニケーションズ、日本労働組合総連合会宮城県連合会、新川達郎、（特活）ハーモニーハウス、ハリウコミュニケーションズ（株）、人と組織と地球のための国際研究所、（株）東日本放送、フレッシュパール会、福原和淑、藤原範典、紅邑晶子、（特活）ほっとあい、松山風土研究会、（特活）まちづくり政策フォーラム、真壁さおり、増子良一、（特活）ミヤギユースセンター、（特活）みやぎ身体障害者サポートクラブ、（特活）MIYAGI子どもネットワーク、（特活）宮城県断酒会、（特活）麦の会、（特活）杜の伝言板ゆるる、（特活）山形の公益活動を応援する会・アミル、八木充幸、八木健、（特活）ゆうあんどあい、渡辺祥子、渡辺博之

**（準会員）**愛知絢子、浅野裕子、荒井勝子、上野和弘、上田由美子、上野裕子、（特活）白石うぐいす会、大泉太由子、沖永哲哉、岡崎トミ子、川崎あや、葛西淳子、木須八重子、楠喜博、高鷹厚、（特活）子育てネットワークバルボンさん、高齢者配食サービスぽけっとはうす、心の図書室、斎藤実、（特活）シャロームの会、（特活）静岡県東部パレット市民活動ネットワーク、（特活）塩釜市体育協会、鈴木典男、（特活）すくすく保育研究所、須藤達也、世古一穂、（社）仙台青年会議所、（社福）仙台いのちの電話、高松市ボランティア・市民活動センター、滝澤陽子、田中聡子、高橋亘、（特活）都市デザインワークス、中務恵美、（特活）日本総合空手道連盟、日本たばこ産業（株）仙台支店、（社）日本損害保険協会、早坂毅、日向則子、（有）平野印刷所、藤田佐和子、布田剛、（特活）ふくしまNPOネットワークセンター、宮野学、宮城県麗人会、遊佐さゆり、（特活）友愛さくら、（財）横浜市男女共同推進協会、（特活）WACまごころサービスみやぎ

## ■企業・団体協力（五十音順、敬称略）

岡元タイル（事務局スペースを社会貢献価格にて）　富士ゼロックス宮城（株）（カラーコピー機を社会貢献価格にて）

## 連絡先・振込み先など

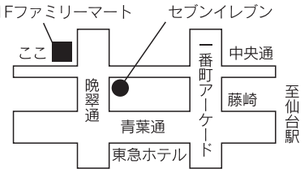
特定非営利活動法人　せんだい・みやぎNPOセンター
〒980－0804　仙台市青葉区大町2－6－27　岡元ビル4F
TEL：022－264－1281　FAX：022－264－1209
E-mail：minmin@minmin.org　HP：http://www.minmin.org/

**▼会費・寄付のお振り込みは、こちらへ！**

郵便振替：02260－3－16325
仙台銀行　中央通支店　普通　4094031
加入者：特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター

## 発行：（特活）せんだい・みやぎNPOセンター

代表理事　大滝精一・加藤哲夫
編集長：内川奈津子
編集班：紅邑晶子
発行日：2008年9月1日
デザイン：氏家朗




岡元ビル4F　仙台駅から徒歩15～20分

## ｜編｜集｜後｜記｜

今号で『みんみん』から、仙台市市民活動サポートセンター通信『ぱれっと』の編集へ異動となります。この1年で誤字脱字の発見能力up、そして視力の低下、それからちょっとの編集能力が身に付きました（と思いたい）。今後は『ぱれっと』で皆様をお待ちしています！もちろん、『みんみん』もよろしくね。（内川）

新年度を迎える準備は、どの団体も大変。常にゴール＆スタートの繰りかえりのような活動状況を年に一度、俯瞰してみることになるこの時期。もっと事業を減らしてもいいのにと毎年思う。がしかし、気づくと増えていることがほとんど。減速気味の世界経済と格差社会が叫ばれるこの国の未来を見据えて、本来果たすべき私たちの組織の役割の整理/整頓が必要かもしれない。だから、9月の通常総会記念講演で播磨靖男さんとの再会が楽しみです。（べにむら）

NPO法人認証団体数　｜　宮城県　486団体　2008/8/7現在　｜　全国　34,941団体　2008/6/30現在（内閣府）





2008年9月1日　Vol.59

# みみんん

【題字】谷川俊太郎さん

## MY FAVORITE　お気に入り小物拝見

多賀城市の菊地健次郎市長のお気に入り小物は、機能的なアシックスのビジネスシューズ。履き心地抜群で、ソールが減っても手放せないと、ご近所の靴屋さんに補修してもらって、大切に履き続けていらっしゃるそうです。じつは菊地市長、就任以来、公用車のお迎えではなく、毎朝、ご自宅から2キロの道のりを歩いていらっしゃるとか。フットワークのよい菊地市長ならではのお気に入りです。

■目次

P2～3…　理事対談　多賀城市長・菊地健次郎氏／加藤代表理事
P4～5…　せんだい・みやぎNPOセンターの事業から
P5……　チョットかじってみよう！CSR　第3回
P6……　寄稿「こんにちは、あおもりNPOサポートセンターです。」　三澤　章さん
　　理事リレーコラム「私と市民活動10年」　田代久美
　　お知らせ
P7……　活動ダイアリー　ブログが伝えた被災地状況
P8……　新規会員・継続会員
　　編集後記、連絡先等

# 理事対談

## 「目標とするのは、『地域内分権』。これからは市民が主役の時代です」

**第4回目の理事対談は、多賀城市（註1）の菊地健次郎市長と加藤哲夫代表理事の対談です。市民参画・市民協働のまちづくりを公約に掲げて、行財政改革に取り組んでいる菊地市長と、多賀城市の地域経営アドバイザーとして、市民活動の支援策、コミュニティの活性化、協働事業の推進などの助言を行っている加藤代表理事。市民活動と行財政改革をテーマにどんなお話が展開するのでしょうか。**

### ■菊地市長自身の市民活動体験

**加藤**／議員さんになるのも、ひとつの市民活動ですね。
**菊地市長**／そうですね。40歳で市議会議員になるまでの12年間は、塩釜青年会議所に所属して、いろんな活動をやりました。たとえば「塩釜ミュージックフェスティバル」「多賀城薪能」を仕掛けたほか、2市3町（多賀城市・塩釜市・利府町・七ヶ浜町・松島町）がこうあるべきという提言も作りました。毎晩のように10人近いメンバーが事務所に集まって、4時間も5時間も夢中になって議論したものです。それから独自に調査をし、各自治体に「こんな看板いらないのではないか…」というような苦言を呈したり、塩竈神社から千賀の浦（松島湾）方向に見える真っ赤な企業広告の看板を白く塗らせたり…。
**加藤**／まさに市民活動ですね。
菊地市長／あとは県議員の時、ライオンズクラブに所属して、国道沿いの除草作業や、川の清掃活動をやりました。市長になってからは、JR多賀城駅周辺と旧長崎屋の落書き消しに市民の立場で参加をしました。その時には、150名ぐらいの市民の方々が参加し、ペンキ代等の費用は、全て募金でまかないました。長年、落書きでいっぱいだった駅周辺が自分たちの手で綺麗にできたこと、そして、同じ思いを持つ人たちがひとつになって作業をした後には、何ともいえない清々しい気持ちになりました。
**加藤**／そうですね。
**菊地市長**／それから多賀城市の隅田地区は、戦前の海軍工廠の宿舎があったところで、現在は、110世帯の方々が住んでいらっしゃいます。ここは、道幅が狭く、災害等があった際には、緊急車両も通行できないようなところです。これはもう市民主体のまちづくりをしていかなければならないと、市役所の建設部の有志11人の職員が立ち上がってくれたんです。でも市役所は決して上からやるんじゃない。下から支えるという姿勢を大切にして取り組んでいます。
**加藤**／実際、上からやると反対されて、なかなかまとまらないことも多いんですよね。地元の人たちがどうしたいかを考えないとうまくいかない。また、行政の方と話すと、住民票を持っている人の話にしかならないんですね。そうではなくて、たとえば鮎釣りに人が来るとして、その川の環境を守りたいと思ったら、いつも来る人とそこで暮らしている人が一緒になって考えなければいけない。選挙権はないけれど、その川の問題を考える時には、一緒に考える相手なら巻き込んだほうがうまくいく。一緒にやらなければならないことって、たくさんあります。だから行政職員でももっと率先して動く人がいてもいい。そういう空気が市役所の中にあることは、とてもいいことですね。

**加藤　哲夫**
せんだい・みやぎNPOセンター
代表理事

### ■多賀城市における財政改革について

**加藤**／市長は、青年会議所時代から政治家になるまで、そのような市民活動をしてきて、学んだこと、もしくは矛盾を感じ、こうしたいと思ったことはありますか？
**菊地市長**／やはり一市民として、行政側を見た場合、市民の考えをなかなか反映してもらえない。そういう気持ちがあったから、議員になりました。政治家って、嫌いだったのに…（笑）。
**加藤**／一市民から市議会議員になり、行政が見えるようになって、市政全般に対して、どんな印象をお持ちでしたか？
**菊地市長**／やはり青年会議所で培ってきたものが底流にありましたので、生意気ですけど「こういう行政をやっていたら、どうなってしまうのだろうか」という思いはありました。私が市長に就任した平成18年8月には、過去の水害対策により財政がすでに逼迫していましたので、就任してすぐ若手を中心とした緊急再生戦略構築専門部会を作り、プランを作成しました。さらに市職員500人を20年間で370人に削減する前市長時代の「定員適正化計画」を、約半分の10年で達成する計画に作り変えましたし、地域手当や特殊手当も削りました。

### ■行政改革と市民参画についての市長の思い

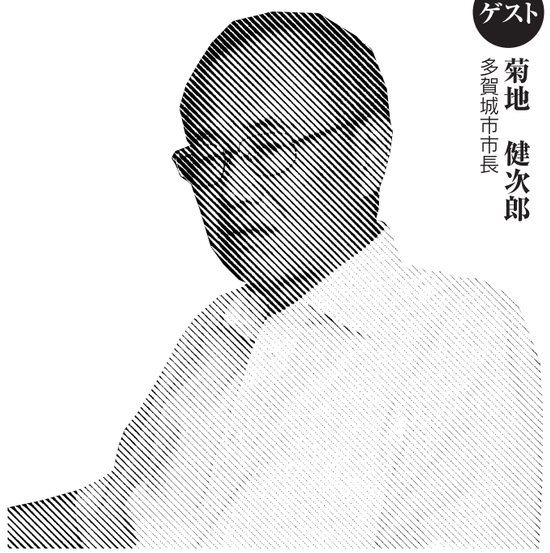
**加藤**／財政再建という流れから、協働・市民参画という話が出てくるんですが、そのあたりでの市長自身の思いというのはありますか？
**菊地市長**／多賀城市という自治体を経営していくために、財政的な厳しさから人員削減をせざるを得なかったということもあって、自分の足で立てる自治体にしていかなくてはならないと考えています。それには行政が果たす役割と市民が果たす役割について、市民に感じてもらいたい。そこで、毎月1回、「おばんです懇談会」（註2）、「市長と話そう　気軽にちょっと茶っと」（註3）というのを行って、直接市民と対話する機会を設けています。
**加藤**／懇談での感触はどうでしたか？
**菊地市長**／地区によっていろいろと問題が違います。目標とするのは、「地域内分権」。これからは市民が主役の時代です。たとえば2、3年のうちにやってもらいたいこと、10年のうちにやってもらいたいことを地域内で話し合ってもらいたい。
**加藤**／住民の要望を聞いて、行政が個別に判断するという構造を変えなければ、住民が行うという状況は作れませんね。
**菊地市長**／それで今度、多賀城市では「第5次総合計画」を立てるんですが、従来の方法ではいけないのではないかと考えています。「自治基本条例」も作ろうと考えていますが、ただ作ればいいというものではなく、やはり市民に参加してもらうことが大切なことだと思っています。
**加藤**／たとえば東海市のように総合計画の進捗確認が市民参加という構造になるといいですね。まずは市民が市民に説明できる状況づくりが大切です。以前、多賀城市の市民10数人と、行政職員10数人で、市民活動の指針を作ろうとした時、コーディネーターをやりましたが、ポイントは、まず委員になった方々が理解することでした。本当に自分の言葉で語れるようにならないと力にならない。一から市民活動とは何かを学んで、自分で文章を書いて、市民に向けて「市民活動の推進はこういうものだ」ということを「演劇」（註4）にしたんです。これは本当に面白かった。市長にもご覧頂きたかった（笑）。それはどんな政策も同じです。そういうことができると、もっと興味・関心を持てる人が増えるだろうと思います。

### ■多賀城市市民活動サポートセンターに期待すること

**加藤**／これからは多賀城市市民活動サポートセンターという活動の拠点ができたことで、新しい息吹のイメージアップができるといいですね。
**菊地市長**／新しくできた多賀城市市民活動サポートセンターは、延床面積からいったら、県内でも大きいほうではないですか？
**加藤**／そうですね。おそらく3番目くらいの大きさではないでしょうか。多賀城市民活動サポートセンターでは、地域の方々が、なんの先入観も持たず、市民活動って楽しいとか面白いと思ってもらって、もっとその輪が広がって、利用して頂けるのが理想です。
**菊地市長**／その通りですね。
**加藤**／そして市民活動団体は、情報を公に出して社会に見えるようにすることで、自分の団体に直接の利益がなくても、多賀城市やその周辺の地域にとって大きな利益があるという発想になってくれるといいですね。
本日はどうもありがとうございました。

（註1）多賀城市：宮城県のほぼ中央、仙台市の隣に位置する市。人口62,926人、世帯数24,267戸。（平成20年7月31日現在）。
（註2）おばんです懇談会：地区の集会所を会場に、毎月1回、2時間程度、菊地市長が考える多賀城市のことや、地域での優れた取り組みなどを多賀城市民とともに話し合う会合
（註3）市長と話そう　気軽にちょっと茶っと：市役所のロビーや、市内公共施設において、毎月1回、1時間程度、菊地市長と気軽にお茶を飲みながら自由にお話しをするサロン
（註4）演劇：「“め”で見る市民活動講演会」2006年3月開催

（記録・編集：谷口恵子、写真：中津涼子）



ゲスト
**菊地　健次郎**
多賀城市市長

# Microsoft NPO Day 2008 －ITで広げるNPOの可能性－

**6月6日（金）、マイクロソフト東北支店を会場にMicrosoft NPO Dayが開催され、定員いっぱいの40名の参加でIT活用についてのセミナーが行われました。**

## ■ Microsoft NPO Dayとは

Microsoft NPO Dayは、マイクロソフト社が実施している、ITを活用したNPOの基盤強化支援のためのイベントです。

日本においては、2006年から東京などで大規模に開催されていましたが、2008年は地域での支援を充実させるため、地域版NPO Dayが7都市で企画されました。仙台のNPO Dayもその一環として行われたもので、（特活）日本NPOセンター、（特活）杜の伝言板ゆるると当センターが企画実施団体となりました。

## ■ ITを活用して情報発信するには

セミナーは2部構成で、セミナー1では活動情報を伝えるためのIT活用法について、（特活）イーパーツの会田和弘さんと当センターの加藤代表理事の講演がありました。

会田さんからは情報発信に使えるITツールの説明とそれぞれの特徴についての紹介がありました。加藤代表理事からは情報発信における信頼獲得の重要性についての指摘があり、情報公開をして団体の信頼を高めるのに利用できるサイトとして、みんみんポータルの情報ライブラリーの紹介がありました。

## ■ ITを活用した共同作業の進め方

セミナー2では、ITを利用した共同作業の進め方について3つの事例報告がありました。1つ目は、河北新報社メディア局長の佐藤和文さんから地域SNSの「ふらっと」について。2つ目は、（特活）イーパーツの会田和弘さんからファイル共有や情報共有に使えるメディアについて。最後に、（特活）日本NPOセンターの吉田建治さんからMicrosoft Office Groove（グループ）という情報共有ソフトについての報告がなされました。

参加者からはセミナーで学んだことをすぐ試してみたいという声がありました。これをきっかけに、仙台でのNPOのIT活用が進んでいけばと思います。（布田　剛）

# 名取市市民活動支援センター事業 NPO寺子屋2008 「達人が教える！ まちづくりマップのつくり方」

**6月7日、名取市市民活動支援センター（以下、センター）でNPO寺子屋2008を開催しました。今回は参加者同士のワークショップがメインの講座で、初めは市民に来てもらえるか不安な面もありましたが、最終的には20名の定員に対して19名からご参加頂きました。講座のねらいだった、「マップを通して名取の魅力や課題などを発見したい方」が何人もいたため、とても有意義なワークになりました。**

## ■ マップづくりの視点は様々

今回の講師は加藤哲夫当センター代表理事。初めに、30分程度講師のレクチャーを聞いてマップづくりの基礎を学んだ後、4つのグループに分かれてマップづくりが始まりました。話し合ったり、センター内にある情報を探したりしながら2時間かけて作成したマップは多種多様。ご高齢の方が多かったグループは、中心市街地に座れる場所が少ないことから「こしかけマップ」を作成。子どもをテーマにマップづくりをしたグループは、名取駅周辺の「子どものまちなか遊び場」マップを作りました。その中に駅の近くにホタルが観れる場所があるという情報があり、周りからも驚きの声が上がりました。

センターの事務ブース入居団体が参加していたグループは、名取の市民活動情報を一覧できる「これから何かやってみたい人への情報マップ」を、以前別のイベントに参加していた方々が集まったグループは、「名取市市制50周年イベントマップ」を作成しました。

参加者の熱意が強く、講座も10分以上時間をオーバーして終了となりました。参加者からも「自分たちでマップを作り楽しかった」、「名取が好きになった」などの感想をいただくことができました。

## ■ ブログを使って情報発信！

今回のNPO寺子屋では、当センターのブログを使い、実況中継のように逐次講座の様子を全国へ向けて発信しました。今後も、今回のようにブログ等を活用しながら皆さまへ生の情報をお伝えして行きたいと思います。当日の様子は以下のURLをご覧ください。（高橋陽佑）

http://blog.canpan.info/minmin/archive/50



# 仙台市シニア活動支援センター事業 ゆたかなシニアライフを楽しむための マッチング交流会

**去る6月22日（日）、50代以上の定年退職前後の方を対象に、マッチング交流会を開催しました。今回は、実際に市民活動団体の活動を体験してもらうところまでをお手伝いするのが一番の目的でした。**

## ■ 鼎談「セカンドライフ ～体験・参加までの道のり～」

まずは、「仙台ボランティア英語通訳ガイドグループGOZAIN」代表の高橋英夫さんと、「仙台傾聴の会」代表の森山英子さんに活動を始めるときの経験談や仲間づくりの秘訣をお聞きしました。気になった人や団体には、まず声を掛けて出向いてみる、という軽やかさと行動力が大切、というお話が参考になりました。

## ■ 団体PRタイム「いっしょに活動しませんか？」

参加した下記の5団体から活動の内容はもちろん、それぞれの団体でどんな体験の機会があるか紹介してもらいました。

○仙台ボランティア英語通訳ガイドグループGOZAIN
○仙台傾聴の会
○SV2004
○（特活）ゆうあんどあい
○（特活）広瀬川の清流を守る会

## ■ マッチングタイム

PRタイムでご紹介した、5つの市民活動団体の具体的な活動内容をさらに詳しく聞いて、実際に団体のイベントや説明会に参加することになった方が、5名も！具体的な一歩を踏み出すためのお手伝いができました。今後も引き続きサポートしていきたいと思います。（真壁さおり）

### 7/11には「企業担当者向け説明会」を開催！

当日は地元中小企業の社長さんや、人事・総務部署の方、再就職支援企業の方など、10社13名が参加しました。自分も定年退職を控えているため興味があるという方、シニアの人材を求めている企業、また再就職支援企業ではスキルを持った人を地域活動に紹介できるなど、今後の連携の可能性が広がる意見をたくさんいただきました。

チョット

# かじってみよう！CSR。3

## ～社員のCSR活動への参加こそ、生きたCSRだ～

7月7日（月）仙台市市民活動サポートセンターにて開催された、企業向けのCSR勉強会は、20社を数える企業が参加。基調講演は、「宮城の企業における企業戦略とCSR」と題して、東北大学大学院経済学研究科教授の大滝精一代表理事が行なった。

はじめに、「変わる企業戦略とCSRとの関係」という切り口で、企業はCSRに関する取り組みが重層的になってきていることを射程に入れてかかるべきであると指摘。コンプライアンスと情報開示、伝統的な社会的責任の遂行、トリプル・ボトム・ライン（経済、社会、環境）の達成、そして社会的イノベーションの推進（企業の戦略的活動が社会と環境の改革や創造に貢献する。）といった4つの視点を示唆した。さらに国内企業においても、CSRのセクションを越えて、新規事業開発、事業開拓、マーケティング、CSRという部署の横断的連携によって課題に取り組んでいこうという時代になってきており、わが社は現在どの段階にいるのか。わが社のCSRの何が課題なのかを洗い出してみることが必要と述べた。

また、「企業内にCSRセクションを設置することで、CSR活動が担当部署だけの課題とされ、そこから広がらなくなる。企業内にCSRに関わる人とそうでない人が現れてしまう。CSRの主旨から大きく捻じ曲がる危険性の認識が必要である。」と述べ、「企業がソリューションビジネスを本格的に取り組めば、一人一人の社員の自発性がCSRにより反映し、一人一人が現場に出てNPOや市民活動の人たちとお付き合いをすることによって、多彩な分野での学習と情報の収集ができる。これが生きたCSRである。」と語った。講演後、参加者の方々から今後のこのような場にどのようなことを期待するかについて様々なご意見をいただき、継続的にCSRに関する情報交換の場が必要であることを確認した。なお、この会の名称については、以前当センターが開催していた[CCF（注）サロン]を復活させるという意味で、[CCFサロン2008]と呼ぶことに決定した。（紅邑晶子）

（注）CCF：Corporate Citizenship Forum（企業市民活動の集まり）の意味。

●全国の支援センターから

## 「こんにちは、あおもりNPOサポートセンターです。」

(特活)あおもりNPOサポートセンター　　常務理事　三澤　章さん

ねぶた囃子の聞こえる中、締め切り当日になって、この原稿のことを思い出し書いています。

私ども「あおもりNPOサポートセンター(通称:ANPOS[アンポス])」は、1999年4月に青森県最初のNPO法人として誕生しました。

当センターのメンバーは職業も様々で、そのため活動も設立当初から多岐に渡っています。障害者及び高齢者のIT支援を皮切りに、子どものアート支援・環境・農業支援等と、通常の中間支援やセミナーなどのほかに、インキュベート事業として多彩な事業を行ってきました。今年度は、廃校活用事業を始め、青森ライフを体験していただき、青森を第2の故郷にしていただこうと「あおもりライフおためしステイ」を行っています。また、一昨年より農業参入をし、市民農園の運営とともに、六反歩1800坪の農地を借り、団塊の世代をターゲットとした実験的NPO農園を運営しています。(今朝も参加理事が早くから農作業を行っています。私はおすそ分けをいただく専門ですが。)

青森を楽しくしようと活動をしています。

原稿が載る頃にはNPO農園も収穫の秋をむかえます。食料自給率118%の青森に是非おいでください。

●理事リレーコラム

## 「私の市民活動10年」　田代　久美(宮城大学事業構想学部／事業計画学科 助教)

当センターも10年を過ぎ、活動拠点もスタッフも増え、新たなステージへと動き出しています。10年前といえば、私がちょうど仙台で、自分の専門分野を活かした、子どもの育成に関わるNPO活動を始めた頃になります。お互いに忙しい時間をやりくりして集まった同じ関心を持つメンバーとの交流が楽しく、何より活動を通して子どもたちが変わって行く姿に触れられることが、活動を続ける大きな原動力になっていました。

それからしばらく経ち、その団体がステップアップするための助成金に応募したことがありました。その時は残念ながら助成金を得ることはできなかったのですが、審査が公開だったため、他の団体のプレゼンテーションを聞く機会を得ることができたのです。宮城県には自分が思っていたよりも多くのNPOが存在し、それぞれのミッションに従って様ざまな活動をしているということを知り、とても衝撃を受けたことを覚えています。

そしてそれと同時に、こんなに良い活動をしているのにまだ知られていない団体があること、逆に活動をしたいと思っているのに情報を探せないでいる人たちがいることを、とても残念に思いました。このことが、私を「NPOを支援するNPO」へと進ませたきっかけになっているように思います。

今ではインターネットも普及して、「みんみん」で検索すれば、みやぎの公益活動の情報をあっという間に手に入れることができるようになりました。NPOと市民・企業・NPOをつなぐ取り組み「せんだいCARES」に参加すれば、実際に体験する・してもらうことも可能です。私はこの10年で、NPOで活動をするだけの人から、他のNPOを支える人へと変化してきました。あなたはどうですか？





## ■活動ダイアリー

**当センターのスタッフの市民活動風景を日記スタイルにて紹介する「活動ダイアリー」。今回は、入院している子どもとその家族のための宿泊施設「ドナルド・マクドナルド・ハウス」でボランティア活動をしている、小松州子さんの活動風景を覗いてみたいと思います。**

**ドナルド・マクドナルド・ハウス**

ドナルド・マクドナルド・ハウスは入院している子どもとその家族のための宿泊施設。現在、国内5ヶ所で困難な状況にいる家族に『第2の我が家』を提供している。2003年11月、「せんだいハウス」は国内2番目のハウスとして誕生した。
詳しくは、こちらを。http://www.dmhcj.or.jp/

### ■ 6月29日(日)(くもり)

9時ちょっと過ぎ、いつものようにハウスにつく。今日のボランティアは2名。おなじみのボランティア同士、チームワークは抜群。利用者のチェックアウトの準備、空室の換気、キッチンやダイニングなど共用部分のケア、役割分担をしながら仕事を進めていく。11時、ランドリールームへ。利用者は、チェックアウト時に使用したリネンを洗濯機にかけて帰ってくれる。私たちボランティアは頃合いを見て乾燥機に入れ、アイロンをかけ収納する。アイロンがけも、たたむのも1人だと大変だけど、チームでやるとあっという間。11時50分、日報に引継ぎ事項を書いて、次のボランティアへバトンタッチ。

### ■ 7月27日(日)(くもり)

事務室に入ったらスタッフのYさんだけ。今日のボランティアは私１人か。そういうこともある。今日のチェックアウトは5組。忙しい。長期のお休みを利用して入院する子が多いのかな。土、日はお父さんや外泊許可をもらった子どもたちがハウスを利用することも多い。ここは、本当に『第2の我が家』。ダイニングには、日曜日の家族の姿がある。キッチンから、お母さんの手料理のおいしそうなにおいがするし、テーブルには子どもたちの声もひびく。“皆がほっとできるスペース”。そんなふうに思うから、ボランティアも続けていられるのかな。

## ブログが伝えた被災地状況

**ポータルサイト「みんみん」開設の数カ月前、ブログ講座が開催されました。団体の皆さんに、NPOは情報発信が非常に重要である事、それはブログを使えば手軽に誰でも簡単にできるという事、そしてブログを更新すればポータルサイト「みんみん」のトップページにも紹介される(人目に触れやすい)、という事を知って頂く為でもありました。**

**そこにある団体が参加していました。それは、(特活)くりこま高原自然学校さん。あの岩手・宮城内陸地震のブログによる情報発信で大注目を浴びた団体です。**

### ■携帯電話からの情報発信

ブログをご覧頂くと分かりますが、4月27日はブログ講座の模様、そして6月14日から正に栗駒の「今」が生々しく写真と共に映し出されています。陸の孤島で情報が遮断され、車のバッテリーで充電した携帯電話１つだけが、唯一日本全土に様子を知らせるツールでした。それにより何人の人々が救われたか想像に難くありません。

### ■新鮮情報満載！ポータルサイト「みんみん」！

これは嬉しい例ではありませんが、このようにブログで情報を発信することは、周囲に団体の活動意義を知らしめる大きな柱となります。

「みんみん」の強みの1つに団体ブログ更新情報があります。各団体の活動情報が更新されるや否や、このサイトにタイトルがアップされる仕組みとなっているので、常に新鮮な情報が満載です。他にも、団体検索、CSR情報、サポート資源供給システム等のコンテンツが満載です！
(小川真美)

●(特活)くりこま高原自然学校「豊志のくりこま高原物語」
http://blog.canpan.info/master_kkns

お知らせ

## 加藤哲夫のNPO経営相談

**日　時:** 平成20年　9月26日(金)13:00～17:00
平成20年10月31日(金)13:00～17:00
平成20年11月20日(木)13:00～17:00
**場　所:** せんだい・みやぎNPOセンター
**相談料:** 2,500円(１時間単位、会員は500円引き)
※ 予約制です。まずはお電話を！

## せんだい・みやぎNPOセンター 第10回通常総会記念講演

**日　時:** 2008年9月6日(土)16:00～17:30
**場　所:** 仙台市市民活動サポートセンター
セミナーホール

**講　師:** 播磨靖夫さん
(財)たんぽぽの家　理事長
(特活)日本NPOセンター　前代表理事

**講演タイトル:**
**「進んでいるか」「遅れているか」を超えて**